

2016年 3月 15日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜 多 悦 子 殿

施 設 名 公益財団法人筑波メディカルセンター

代 表 者 代表理事 中 田 義 隆



2015年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 2015年度 ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業
2. 期 間 2015年 4月 1日 ～ 2016年 3月31日
3. 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記 I～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)
※決算期の関係で2015年3月16日(月)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日 2016年 6月30日)
 - V 研修修了者報告書

以上

平成27年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業

筑波メディカルセンター病院 緩和医療科

診療部長 志真泰夫

診療科長 久永貴之

I.事業の目的・方法

1) 目的

本研究事業の緩和ケア専門研修においては、筑波メディカルセンター病院（以下、当院とする）での緩和ケア病棟における専門的緩和ケア研修を行う計画である。また当院緩和ケア病棟では積極的な地域医療機関・専門外来・緩和ケアチームとの連携を進めており、緩和ケアに必要な不可欠な連携についても研修が可能である。

これらの研修を通じて1年間で緩和医療専門医として必要な知識・技能の習得を目指すことを目的とする。

2) 方法

黒川裕子医師（以下黒川医師）は平成19年から東京厚生年金病院にて初期研修を行い、平成21年4月より筑波大学附属病院麻酔科に入局され、麻酔科医としての研鑽を積み、麻酔科標榜医、認定を取得している。麻酔科での周術期管理やペインクリニックでの経験を生かし緩和ケアを専門として学ぶことを目的に当院での緩和ケア研修を行いたいとの希望があり、貴財団の「ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業」に応募した。

黒川医師の専門フェローシップ研修の具体的目標として、緩和ケアチームや外来診療を含む緩和医療の幅広い臨床能力を身に付けることとした。研修年限は1年間とした。

3) 具体的な研修計画

○緩和ケア病棟研修

緩和ケア病棟における急性期の入院患者を対象として専門的な症状マネジメントやチームアプローチについて研修を行い、緩和ケア病棟における診療を会得することを目的とする。

さらに院内緩和ケアチームや緩和ケア専門外来でも研修を行うことで、地域との連携や治療期からの円滑な移行やチームとしての葛藤も含めた研修を行うことを目的とする。

II.研究事業内容・実施経過（資料参照）

- 平成26年4月1日～平成27年3月31日（筑波メディカルセンター病院緩和医療科）産休期間（平成26年11月1日～平成27年1月15日）
- 昨年度産休期間分について、平成28年1月～3月までの研修を行い、合計1年間の研修を修了した

黒川医師は筑波メディカルセンター病院に緩和医療科専門研修フェローとして勤務し、緩和ケア病棟の病棟医として、実際の臨床を研修した。3ヶ月の短期間の研修であったが昨年度とは別の指導医の下で新たな視点のもと24例のがん患者を担当した。昨年度経験できなかった領域を含め幅広く専門的な緩和医療を経験することができた。

Ⅲ 専門研修の成果

黒川医師は、来年度は事情により一旦退職する形となったが、今後も引き続き緩和ケアの診療に従事することを希望しており、何らかの形で従事できるように支援をおこなっていく。

平成27年 緩和医療科フェローシップ研修プログラム

年間

	1月	2月	3月
研修内容	緩和ケア病棟		

週間

1月～3月

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	